

た所を掘ると、実際に石が出てきました。この石をご神体としてほこらに祭ったのですが、石を守るように白いへびがいたという話もあります。

さらに天田さんは、「お告げにあつた通り、山のある場所を掘ると、白酒のような真つ白い水が出てき

昔はお祭りでにぎわいました

昭和十一年には五天山神社が建てられました。神と仏が一緒になった珍しい神社で、お告げのあつた大國主大神をはじめ、多くの仏像も祭られました。

その後、人々にこの神社の存在が広まり、戦後の昭和二十年代には人がたくさん集まるようになります。稲作が盛んだつたこの地区では、農作業の合間の八月に、骨休めとして夏祭りが盛大に開かれていました。芝居小屋ができ、芸能人もやって来るなど、地元の人々はお祭りを本当に楽しみにしていたようです。

代々、地元平和にお住ま

たんです。体の悪い所に付けると効き目があると評判になり、うわさを聞いてわざわざ遠くからくみに来る人もいました。この水を飲んでいられる人もいましたよ」と話してくれました。いつのまにか水は出なくなり、今となつては、どういう水だったのか分かりません。

いすいの安井いみづ實次さん（七十二歳）にお話を伺いました。安井さんは、五天山のほこら作りに尽力した前述の安井廣さんの息子さんです。「昔、五天山のお祭りは、若い人にとつて、男女の出会いの場でもあつたんです。盆踊りにも、たくさんの方が踊りに来てましたよ」と懐かしそうに話します。



▲安井實次さん



▲杉本清作さん

時がたち、開祖の井上弥一郎さんや中心となつていった人たちが亡くなり、祭りにぎわいも、次第に小さくなつていきました。

この二月で九十二歳になる杉本清作すまもときよざねさんは、長年、地元で五天山を見続けてきました。「その後も五天山では熊が出たり、脱獄犯が逃げ込んだといううわさが流れたり、あまりいい話がありませんでした。そのうち山に人が入らなくなつてしまつたんです」と話します。昭和六十年ごろには、老人の幽霊が出るといううわさまで出ていたようです。時代の流れとはいえ、今の五天山には、昔のにぎわいはありません。今回お話を伺つた地元の方々は、それを一様に寂しく思っているようです。

時代とともに変わる五天山

五天山では、昭和二十八年ごろから採石が行われていました。山の所有者が次々と代わり、山の三分の一ほどが削られました。地元の人たちの「山を守りたい」という意向により、平成二年に中止されましたが、今でも削られた山肌が痛々しく目に映ります。

平成十三年から、山の南側に、西区初の総合公園となる五天山公園を整備しています（次ページ参照）。将来、この地が緑豊かな公園になることよつて、地元にもにぎわいが戻り、五天山も再び生き生きとした姿を見せてくれるに違いありません。



▲今後、緑豊かな公園が本格的に整備されてゆく五天山